

カダヤシ

カダヤシは1916年頃に、「蚊(か)を絶(た)やす」ことを目的に、外国から輸入されました。

そのカダヤシが問題になっています。カダヤシとメダカは生息場所や食べ物が似ていて、同じ場所にいるとカダヤシがメダカを追いやってしまいます。

生息場所はメダカと同じで平地の池や田んぼ、用水路などの流れの緩やかな所にいます。

食べ物は、植物プランクトンや動物プランクトン、落ちてきた小さな虫を食べますが、自分より小さな魚の子どもも食べてしまいます。

カダヤシは「卵胎生(らんたいせい)」で、6月頃～8月に体内で卵がかえると赤ちゃんが出てきます。卵の時期にお母さんのお腹の中で守られているため、水草に卵を産むメダカよりも数で勝ってしまいます。

平成17年から始まった「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」の中で、カダヤシは「特定外来生物」に指定され、移動や飼育などが禁止されています。違反すると罰金などの罰則があるので気をつけて下さい。



富士市での現状

浮島ヶ原周辺の田んぼの水路で多く確認しました。元々は富士市にはいなかった魚ですが、今ではメダカよりも広く分布しています。

カダヤシを確認したメッシュ

